

## 夏のおはなし会

※事前の申し込みは不要です。

中央図書館  
0558-76-5566  
葦山図書館  
055-949-8605



	葦山図書館	中央図書館
とき	8月6日(土) 14:00～15:00	8月10日(水) 14:00～15:00
ところ	葦山図書館 幼児図書室	中央図書館 2階視聴覚室
対象	幼児～小学生	幼児～小学生
内容	絵本の読み聞かせ 昔話・紙芝居など	ワークショップ(簡単な工作) おはなし・手遊び・紙芝居など
協力	かみふうせん	図書館読み聞かせボランティア

## 図書館だより

### 今月のおすすめ ～運営協委員その2～

図書館運営協議会委員、鈴木直美さんと、大川真弓さんにおすすめの本を紹介させていただきます。



『ゆらゆらばしのういで』きむらゆう(文)はたこうしろう(絵)

うさぎを追いつめたきつね。ところが橋が土手から離れゆらゆら橋に。動くことができない橋の上で2匹の会話にほっこり。鈴木委員のおすすめ絵本。【全館】



『職業としての小説家』村上春樹(著)

村上春樹は何をどう考えて小説を書き続けているのか。独自のシンプルでタフな生き方から学ぶべきことは、作家でなくてもあるはず。大川委員のおすすめ。【中央】

### ■新聞・雑誌も大切に

家庭ではすぐに捨ててしまう新聞や雑誌も、図書館ではそれぞれ期間を決めて保管している大切な資料です。書き込みや切り抜きは、ほかの利用者がたいへん迷惑します。本はもちろん、新聞や雑誌もマナーを守り、大切に利用してください。



図書館カレンダー  
モバイル版QRコード

### ■8月のおはなし会

※いずれも土曜日

中央図書館 13日11:00～

葦山図書館 13日、27日14:00～

あやめ会館 20日10:30～

8月の休館日	中央図書館	葦山図書館
1日(月)、8日(月)、11日(木・祝)、15日(月)、22日(月)、26日(金)、29日(月)	1日(月)、8日(月)、11日(木・祝)、17日(水)、24日(水)、26日(金)、31日(水)	3日(水)、10日(水)、11日(木・祝)、17日(水)、24日(水)、26日(金)、31日(水)

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> 中央図書館 ☎0558-76-5566

# 文化財通信

その134

## 江川文庫所蔵資料の保存修理(その1)

市役所文化財課  
055-948-1428

## 平

成25年6月19日に重要文化財に指定された、「葦山代官江川家関係資料」。その名のとおり、江戸幕府の葦山代官の仕事に関わる文書を中心に、江川家に伝来した書画や典籍・工芸品などを含む、3万8千点あまりにのぼる貴重な資料群です。これらの資料は、江川家として公益財団法人江川文庫によって、今日まで大切に保管されてきました。

しかし、長い年月の間には、カビや昆虫、ネズミなどが原因で、資料が傷むことは避けられません。特に、紙の繊維を好んで食べる「シバンムシ」類の幼虫による食害(虫損)は深刻で、多くの資料が穴だらけにされているのが現状です。中には、虫損がひどく、開くことすらできないものもあります。そこで江川文庫では、国宝や



修理された資料(左)と未修理の資料(右)  
(公益財団法人江川文庫蔵)

重要文化財の保存修理に実績のある工房に依頼し、破損した資料の保存修理を実施しています。膨大な資料群の中から、破損の状態による修理の緊急度、資料の内容、利用頻度など、多角的な視点で選ばれた対象資料が工房に運ばれ、およそ1年をかけて慎重に修理が施されています。さて、これまでに修理された資料には、掛軸やまくり(注1)、卷子、冊子など、様々な形態のものがあります。今回はその中から、『反射炉御用留年々用』を紹介します。これは、葦山反射炉の築造から稼働の状況を記録した、反射炉研究の基礎となる重要な資料です。年代は、嘉永6年(1853)から元治元年(1864)にわたっており、全部で500丁(注2)近い、分厚い冊子です。修理前は、虫損が著しい上に汚れや染みがあり、綴じ紐も切れかかった状態でした。

重要文化財の保存修理に実績のある工房に依頼し、破損した資料の保存修理を実施しています。膨大な資料群の中から、破損の状態による修理の緊急度、資料の内容、利用頻度など、多角的な視点で選ばれた対象資料が工房に運ばれ、およそ1年をかけて慎重に修理が施されています。さて、これまでに修理された資料には、掛軸やまくり(注1)、卷子、冊子など、様々な形態のものがあります。今回はその中から、『反射炉御用留年々用』を紹介します。これは、葦山反射炉の築造から稼働の状況を記録した、反射炉研究の基礎となる重要な資料です。年代は、嘉永6年(1853)から元治元年(1864)にわたっており、全部で500丁(注2)近い、分厚い冊子です。修理前は、虫損が著しい上に汚れや染みがあり、綴じ紐も切れかかった状態でした。

工房では、写真撮影や詳細な観察によって破損状態を記録。次に綴じ紐を除去して解体し、使用されている紙の繊維分析により原料を特定し、「漉き嵌め」(注3)という手法で、1丁ごとに修理を進めました。こうした慎重かつ繊細な作業により、傷んでいた資料は、整った冊子として見事に蘇ることができたのです。

なお、修理された『反射炉御用留年々用』は、「葦山反射炉世界遺産登録1周年」を記念して、未修理の『反射炉御取建御用留』とともに、現在江川邸内で展示されています(8月16日まで)。

(注1) 書や絵画で、掛軸や額などに装丁されていない状態のもの。  
(注2) 和綴じの本や冊子で、袋綴じになっている紙1枚(2ページ分)を1丁と数える。  
(注3) 本紙と同じ繊維の溶液で欠損部分を充填する修理技法。裏打ちと違い、紙が厚くならないのが特徴。